



- 再生可能エネルギーの活用：創エネ
- 建物の省エネルギーの徹底：省エネ
- 森林整備・保全によるCO₂吸収：固定

三重大学 キャンパスのカーボンニュートラル (三翠会館編)

■ 気候変動影響と文化財

気づいていますか？
 三翠会館は、古を伝えるだけでなく上浜キャンパスに影響した1944（昭和19）年の東南海地震、1959（昭和34）年の伊勢湾台風などの災害*を乗り越えて現在に残る、とても堅牢な木造建物でもあるのです。

近年、太平洋島嶼国などでは海面上昇による冠水など気候変動や災害などによる文化財への被害や影響が生じています。日本でも気候変動の影響を軽減するための適応策として、文化財の位置や状況と起こり得る災害の把握が重要とされています。三重大学上浜キャンパスでは、1959年の伊勢湾台風の際に、この三翠会館や当時の農学部本館棟の屋根瓦が吹き飛ばされ、雨漏りの発生した被害*が記録され、現代の私たちに伝えられています。

*『三重大学50年史』通史編・資料編1999年 p.182
 昭和34年伊勢湾台風による被災写真（三重大学）みえ防災・減災アーカイブ(2026年4月10日閲覧)

■ 登録文化財 三重大学 三翠会館 築90年

三翠会館は、1936（昭和11）年に三重大学の前身の三重高等農林学校の開校10周年記念事業として、同窓会の寄付により建築されました。2025（令和7）年10月～2026（令和8）年3月には、外壁、土台部分の保存修復による歴史的意匠の再生のための改修工事を施し、次世代へと繋いでいきます。



改修された三翠会館（2026年3月9日 南から撮影）



改修された三翠会館と門柱（2026年3月9日 北から撮影）



改修された三翠会館（2026年3月9日 南西から撮影）



● 三翠会館



三重大学マスコットキャラクター ミールド

2050カーボンニュートラルに向けた取組計画

国立大学法人 三重大学
 地球環境センター
 施設部 2024年11月



上浜キャンパス航空写真（2024年5月4日撮影）